

肺の病気テーマに講演

市民公開講座 和歌山病院院長ら

みなべ

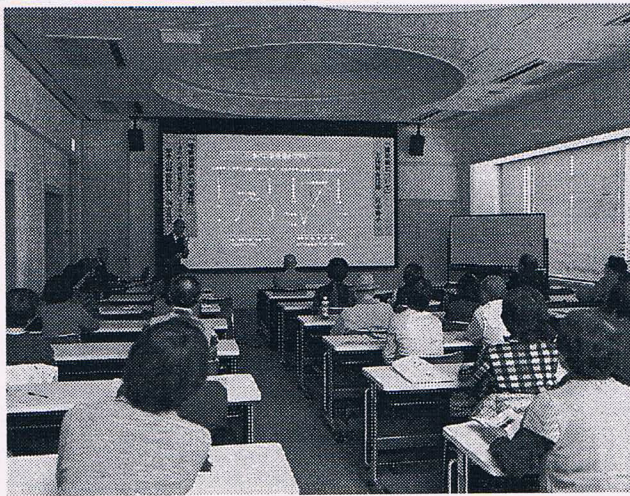
みなべ町芝の町役場でこのほど、国立病院機構和歌山病院(美浜町)の南方良章院長らによる市民公開講座が開かれた。南方院長は多くが長期間の喫煙によって引き起こされるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)といった肺の病気について説明し、呼吸器検診の大切さを訴えた。

町村合併10周年記念として開いた講座には約30人が参加。南方院長は肺結核や肺がん、肺の働きが低下し呼吸が困難になってしまうCOPDについて説明した。和歌山県はCOPDによる10万人当たりの死亡率が島根県に次いで高いことや簡単に言うとなばこにより肺が壊れてしまう病

気であること、日本ではCOPDで治療を受けているのは22万3千人だが、推定される患者数は500万人以上にあることを指摘。「たばこは一日でも早くやめた方が絶対いい。周りの人に禁煙を勧めてほしい」と述べた。

さらに、世界の疾患別死亡順位の上にCOPDなどの呼吸器疾患が入っていることも説明し「積極的に呼吸器検診を受けることで結核、肺がん、COPDの早期発見・早期治療を行うことができる。和歌山病院では呼吸器疾患に力を入れているので何かあれば来ていただきたい」と呼び掛けた。

この日は、同病院の宮本勢



△
和歌山病院院長らを招いて開かれた市民公開講座
(みなべ町芝で)

子主任検査技師による「肺年齢を測定するコーナーも設けられた」と題した講演もあつた他、会場には肺年齢健康状態を確かめていた。